

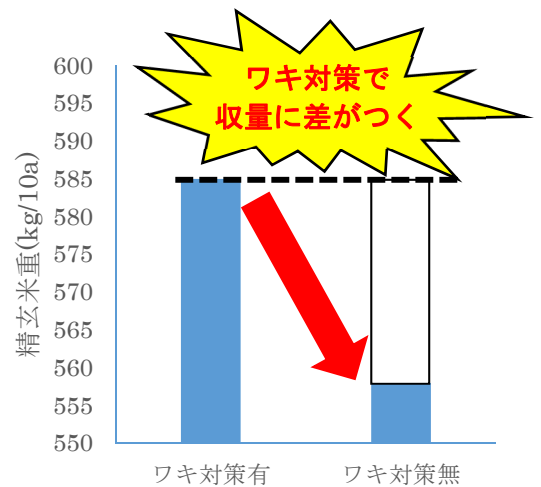
### 稲わら腐熟で来年度ワキにくい圃場を作る！ 土づくりを行って気象変動に強い圃場準備を！

#### 1 刈取直後から異常還元（ワキ）対策を！

##### (1) ワキ対策しないと収量DOWN！

ワキが強まると初期生育が遅れ、初期茎数の不足や一穂粒数の不足等の要因から収量ダウンにつながります。

ワキは、圃場にすき込んだ稲わらなどが入水後、急激に分解されることで起こります。稲わら腐熟に取り組むと、ワキの素となる稲わらの残存量が少なくなるため、ワキを抑えることができます。



ワキ対策の有無による収量の比較  
(R02 鷲畑 普及課土づくり実証圃)

##### (2) あなたはどっち？ 稲わら腐熟促進の方法

稲わら腐熟の方法は、「秋の浅耕」と「石灰窒素の散布」の2種類があります。

手法による効果の差はないため、下表を参考にして、圃場条件や経営状況により自分に合った方法を選びましょう。

表 秋に行うワキ対策の方法

	秋の浅耕	石灰窒素の散布
実施時期	収穫後なるべく早く	(遅くとも10月下旬まで)
実施方法	深さ5cm程度で浅く耕起	つや姫で現物10kg/10a その他品種で現物20kg/10a を目安に動力散布機で散布する
コスト	低い	高い
実施可能な圃場条件	実施時に圃場が一定程度乾いている	玄米粗タンパク質含有率が毎年高い圃場や、全量基肥栽培では施用しない。
リスク注意点	排水不良圃場では、春先の作業に支障をきたす場合がある	玄米粗タンパク質含有率がやや高まる場合がある。 生育診断に基づいた穂肥を実施する。

### (3)ここを押さえたらカンペキ！ 稲わら腐熟のポイント！

#### 秋の浅耕を行う場合のポイント

- 秋は浅く(約5cm)、春は深く(約15cm)起します。浅く耕起することで、次の効果が得られます。
  - ・上層ほど地温が高いため、稲わらの分解が進む
  - ・地耐力が低下しにくい
- 排水不良等で圃場が乾きにくい場合は次のいずれかで対応しましょう。
  - ・水口や圃場入口等乾きにくい部分以外に実施
  - ・サブソイラー等で透水性を改善した後に実施

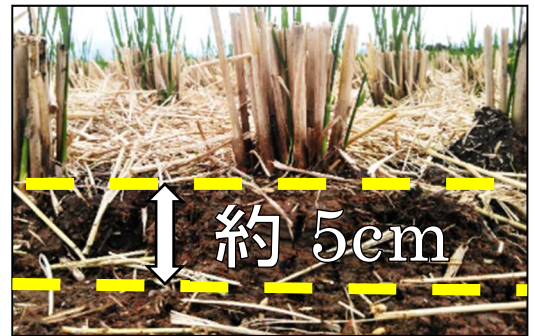


写真2 秋の浅耕後の様子  
(未実施部分との境界)

#### 石灰窒素散布を行う場合のポイント

- 「つや姫」を栽培する場合、次のような圃場では石灰窒素の使用を見送りましょう。
  - ・地力が高い圃場
  - ・毎年タンパク質含有率が乾物当たり7.0%以上となる圃場
  - ・全量基肥栽培を行っている圃場

## 2 土づくりで品質・食味・収量の向上を！

堆肥や土づくり資材の施用を行うことで、登熟期の養分・水分の保持や乾物生産の向上といった効果が得られるため、気象変動に備えることができます。

近年は気象変動が大きく、品質・食味・収量の向上が難しくなっています。来年の作付けに向けて気象変動に耐えられる圃場を準備しましょう。

#### 堆肥施用の効果

土壌を柔らかくし、保水力を上げる  
登熟期の窒素状態と土壌水分を維持する



白未熟粒・胴割粒発生を防止する

#### ケイ酸施用の効果

光合成が促進され、  
乾物生産が良くなる



収量・品質・食味の向上

<秋季農作業事故防止運動強化期間 9/1~10/31>

★見直そう！農業機械作業の安全対策★

コンバイン使用時、収穫作業における重大事故に注意しましょう！

機械に触る時は必ず電源 OFF

STOP農作業事故！